

[成果情報名]本県水田土壌の過去25年間での交換性カリ、可給態リン酸含量の地域別推移

[要約]過去25年間において干拓地水田土壌の交換性カリ含量は、近年減少傾向にあり、県北地域では徐々に増加している。また、可給態リン酸は干拓地で多く、県央、県北地域では少なく推移している。

[キーワード] 土壌、水田、交換性カリ、可給態リン酸

[担当]農林技術開発センター・環境研究部門・土壌肥料研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330

[区分]総合営農（生産環境・土壌肥料）

[分類]指導

[背景・ねらい]

肥料価格の高騰にともない土壌診断に基づくリン酸、カリの適正施肥が求められている。水田土壌中の交換性カリや可給態リン酸の含有量には地域や土壌によって特徴が見られ、これらを捉えることは、地域毎の施肥対策を講じる上で非常に重要である。そこで、土壌機能実態モニタリング調査（1979年から県下195地点で5年ごとに6回実施）結果から、水田作土の交換性カリと可給態リン酸含有量の推移について地域別に明らかにして、今後の施肥対策のための基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 本県水田土壌における交換性カリ含量は、1999～2002年時点までは干拓地で80mg/100gと多いが、2004～2007調査時点では50mg程度となり、他地域との差が小さくなっている。また、県北地域では徐々に増加し、50mgに達している（図1）。
2. 可給態リン酸含量は、干拓地で多く2004～2007年時点で34mg程度であるが、県央、県北地域は10～20mg程度と少ない。また、県央地域ではやや減少傾向にある（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本数値は複数ほ場の平均値であり、個々のほ場における施肥を判断するには土壌診断が必要である。
2. 壱岐地域の可給態リン酸の84-87、04-07の数値については、採土の際の肥料の混入、採土時期の問題等考えられるが明らかではない。

[具体的データ]

地点内訳

地域名	地点数	含まれる地区名
干拓地	9	諫早市小野島、森山、雲仙市吾妻町
県央	15	諫早市本野、多良見、大村市寿古、東彼杵町平似田、波佐見町
県北	16	佐世保市、松浦市、吉井町、佐々町、平戸市
壱岐	6	芦辺町、石田町

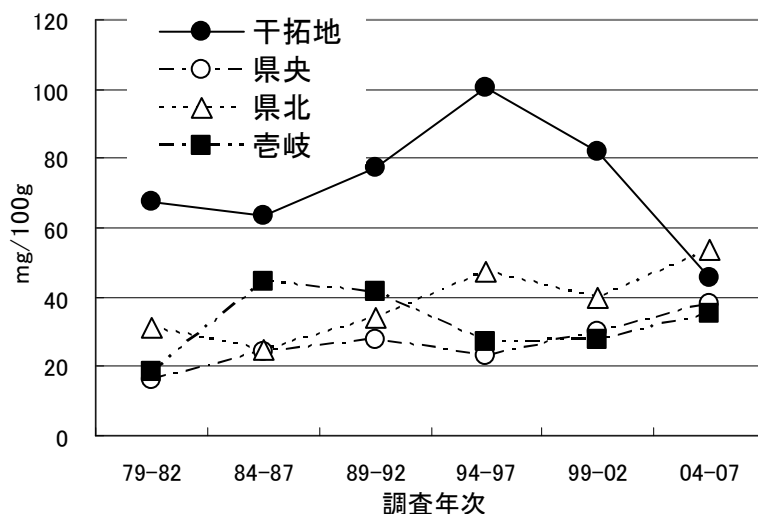


図1 本県水田土壌における交換性カリ含量の25年間の地域別推移

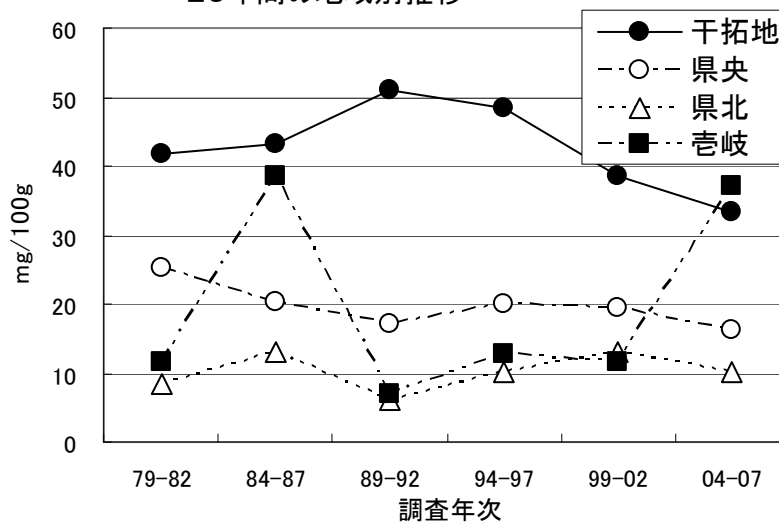


図2 本県水田土壌の可給態リン酸含量の25年間の地域別推移

[その他]

研究課題名：土壌機能実態モニタリング調査

予算区分：国庫

研究期間：1979年度～

研究担当者：藤山正史